

09年1月22日市警ニュース

JSS 和訳

地下鉄で起きた発砲事件で警察が一般に協力要請、監視カメラに映った犯人の映像を公表、「犯人が誰か分かりませんか」

1月22日木曜日、午前10時47分、地下鉄オスグッド駅で起きた発砲事件の通報があり警察が出動した。

報告によれば、

- ・ 地下鉄ヤング-ユニバーシティ-スパダイナ線オスグッド駅で、2人の男性間で口論が起きた。
- ・ 一方の男が拳銃を取り出し、相手に向かって発砲した。
- ・ 犯人は現場から逃走した。
- ・ 警察は銃創を受けた19才の男性を発見した。

被害者は、重症であるが生命にはかかわりの無い傷で病院に搬送された。

犯人は、黒人で肌色はうすく、20～27才、身長6ftないし6ft2in(180cm～185cm)で中肉。

この男は、新版のトロントブルージェイズの野球帽をかぶり、裏毛の冬用黒いパーカ、黒いズボン、横にナイキのマークがある黒のナイキエアジョーダンランニングシューズをはいていた。

事件に関する情報を持っている人は、警察(電話 416-808-5200)、または匿名でクライムストップス(電話 416-222-TIPS (8477)、オンライン www.222tips.com、または text TOR の CRIMES (274637))まで連絡されたい。

JSS 説明

当地での発砲事件発生は、北米の大都市の中では比較的少ないが、日本の状況と比べると比較にならないほど頻発する。また、銃器の携行が極めて稀と考えられる日本に比べると、街中のどこにでも銃器があると考えざるを得ないのも実情である。訳出した例のように、地下鉄の駅構内で、おそらく偶然発生した口論で拳銃が持ち出されるなどは稀ではないし、何らかの事由で停車を命じられた車の中からとか、運転中の口論の末の発砲も稀ではなく、したがって法的には禁じられているとはいえ、実際上は町中どこにでも銃がありうると思えるべき状況である。

また、発砲場所も人ごみや公共交通車内など、周囲に人がいるところで起きる場合も少なくないので、常に周囲の状況に注意を怠らないことが必要だ。更に、不幸にして被害が及びかねないところに居合わせた場合、安全を確保する方法は、すぐ近くに物陰があった場合は別として、立って動くことは非常に危険であり、その場に伏せるのが一番とされているが、危険に出会った場合とっさにそれが出来るかどうか、当地に長く住んでいる筆者にも自信はない。

ともあれ、重ねて強調したいのは、当地ではどこにでも銃器がありうることであり、したがって発砲もどこでもありうることだ。